昭和二十一年一月十五日　勤労タイムス　KIROTAIMUSU　【改題】四號　【一】

旬刊

勤労タイムス

毎月二回一日一五日發行
定價　一部二十五錢
一ケ月五十錢
廣告　一行一回
場所指定五十錢增
頭島縣平市大町八番地
編輯兼發
行印刷人　木村安次

黒ダイヤ出炭不足と

炭礦勞務の確保に就て

現在は恐しい石炭飢饉の狀ゆる機關が全力を擧げて勞態にある、其れがどんな影務の確保に邁進してゐるのであるが、遺憾乍ら思ふ樣響を與へるかに付いて國民では餘りに關心を持つてゐなに事績を擧げ得ない實情にい樣である。

石炭が此の儘の狀態で推移したなら氣車がとまる、從つて輸送が亂れる、熔鑛爐の火が消える、全産業が既にストプする、國民生活は重大な脅威にさらされる、平和國家の再建は及びもつかぬ夢となる、既に其れが現實に現はれつゝある狀態まで最後の場合であつて、に置かれてゐる、新日本のどこまでも國民の自覺に依建設は正に石炭からと謂つつて解決することを希望しても過言ではない、一刻もてゐる。

早く一噸でも多く石炭を出すことに努力せねばならぬ石炭飢饉の因つて來る原因は種々雜多であるが、戰時二合三勺の復元配給を決定中無理を重ねた結果採炭現場は極度に荒廢しゝてゐるあらゆる資材も欠乏し殊に勞務者は極端に減少した、今炭礦は之等の原因徹去にも出來得る限りの考慮が就いて懸命の努力を續けてゐる、然し何と言つても石炭礦の受入準備は先づ萬全炭確保の暗礁は勞務の不足であつて石炭礦の欠乏が我が國民であるとの受入準備は先づ萬全と言つても差支へないだらう、石炭の欠乏が我が國民生活にとつてどんな惡影響をもたらされるかがよく了解されることゝ思ふ。

働く條件は現在の國情から見れば先づ最良と言ふても差支へない、過去の全ゆる惡狀態を今更ら繰り返して批判し自らを慰め其れで事足れりとするは再建日本の爲めに執らない處だ。

勤勞する意志を自ら忘却するのは自己を破滅に導く許陛下が國民と共にあり其の決定實踐に移す計畫である

新國家の骨格明示

年頭詔書憲法改正に指針

平驛聯合區勞働組合發足

不當な要求は回避

東鐵管內に魁けして結成した平驛聯合區鐵道從業員勞働組合は各驛毎に選擧を行ひ理事を選任、この程平驛に理事會を開き、役員互選んなに貯金が確かりと見せまたのであるが、各組合の窓口に參りますと混雜致しますので貯蓄組合長が一括して取扱を致すことに願つて

地區組合貯蓄と

國債貯金の振替に就て

十二月十日より實施中の各組合員の個人々々のもの「貯蓄新發足期間」の實施要領中貯蓄組合及國債貯金のとして御渡しすることであり、其の際現金で御渡しすることは現在のインフレ防止上適當の措置でありませんので据置期間一ヶ年以上の定期、据置、定額預金證書でお渡しすることになりました、

其の際今まで取扱の銀行や農業會へ手持現金を足しを確信する、金額は甲と乙の二種で何れも二百圓が一口で甲種は年別二分で期間一ヶ年、乙種は年利三分で期間二ヶ年、奬金及抽籤日は左の通り

（奬金）甲種　乙種
一等　三萬圓　一萬圓
二等　五千圓　一千圓
三等　一千圓　百圓
等四　百圓　十圓
五等　十圓

（抽籤日）
甲種昭和二十年二月五日
昭和二十一年二月五日
乙種昭和二十二年二月五日

久保三郎（平）外一名
（委員）
小野克衛（小川郷）外十九名
（綱領）
一、我等は鐵道職員たる使命に鑑み民主主義國家建設の主軸たらん
一、我等は自由と平等とを尊び勞働の神聖を強調し組合の發展に挺身せん
一、我等は道德を昂揚し明朗果敢國鐵運營の完璧を期さん

（役員）
▲組合長友部弘勇（平）
▲副組合長大垣喜六（綴）
▲理事富山盛壽（高萩）▲高橋勝也（南中郷）▲坂本信盛（磯原）▲眞家正義（關本）床宿軍之（勿來）▲高須健藏（植田）伊藤辰雄（泉）▲佐藤哲郎（湯本）▲大塩喜六（綴）▲友部弘勇（平）▲中村捨吉（赤井）▲小池覺司（小川郷）
（幹事）

水力電氣開發具体化
全國八十ケ所にダム候補地

政府は經濟再建と失業對策の兩面から水力電源の開發と周波數統一事業の實施を取り上げ、これが具体化を强力に推進するため近く特別の機關を設け資金、資材勞務等綜合的見地から具体案の作成に取りかゝる事となつた、又これと並行して送電設備擴充計畫も進めてゐる、而して現有發電設備は水電五百八十万キロワット、火力三百萬キロワット(但し火力は空襲被害により現在可能出力五十萬キロワットに低下)で昭和十九年度末の發電力量は水電二百八十五億五萬キロワット時、火力三億三千五百萬キロワット時を示してゐるがポーレー大使の賠償中間計畫に依れば火力發電設備の五割を徹去されることゝなつてをり、商工省ではかゝる情勢に對應して全國に八十餘個の堰堤設置候補地を選定、既に十數ヶ所の技術的調査を終り、第一次建設候補地として目下工事を中止中の神野瀨、長澤、右河內、第一、有峯を含めた十一ヶ所を內定してゐるがこれが完成すれば既設の下流發電力量は約五千四百六十七萬キロワット時と算定され、石炭七十五萬五千グラムトンに相當する、このほか既設發電所關係の建設されるとすればその發電力量は十億四千六百萬キロワット時に上る、又失業對策の面ではこれ等の堰堤建設に要する一般ろう務者數は延人員一千四百二十九萬人と推定されてをり、このほか技術者事務員等相當數の失業者が救濟される事となる堰堤建設の特別機關については事務局案として商工省內に臨時堰堤建設對策本部を設けることゝし舊臘正式決定の豫定である、綜合的治水行政機關として治水省乃至はこれに準ずる强力機關設置の意見もあつて結局決定の運びに至らなかつた然し遠からず何等かの形に於て實現するものと期待されてゐる。

進歩黨の新黨首
町田氏の受諾まで

進歩黨は出船に當り船頭を漸く探しあてた、曰く町田忠治翁である、こゝにいたるまでには黨結成から二ヶ月も立つてゐた、其の間宇垣か近衛か澁澤或は町田と首を見つけて歩いた、近衛はすでに幽明境を異にし澁澤は柄にあらずと辭退し宇垣では黨の纒つた交渉に至らず、結局手近な八十三翁の町田老人に二顧の禮をとつて一顧を得た次第である、新時代の民主々義政黨を代表するには餘り古色蒼然であり選擧費の出しぶりは惡いとは知りながらもと民政黨總裁であつたゆゐを以て舊民政系の運動が効を奏した次第だが、宇垣を擔いだ齋藤、一宮、川崎の諸君は同じ舊民政でも不滿であり、いはゆる反幹部孤や舊政友系にも分裂機運が釀成されつゝあるので或は割れるかも知れないと云はれてゐる、さるにしても宇垣老人はさらし者にされるべく生れて來たやうな喜劇役者である、宇垣內閣流產以來いつたい幾度噂だふれとなつたであらう、今度こて黨からの正式交渉であれば出馬せんものと思ひ居り選擧資金も積んで待ち構へてゐたのに來たのは町田總裁の情報である、第一黨の總裁だから町田氏は次の政權を夢に見ても無理無くはない、戰犯の大嵐が吹かぬ限り選擧の結果も第一黨の積りである、さて新日本建設第一歩が町田內閣によつて踏み出されるとしたなら何と古くさいものであらう其れを思へば晩秋の哀愁が亡國的な響きをつたへる、院內でケンケンゴウ〳〵の活氣あるは進歩黨だけ、自由、社會、無所、無產の各黨いづれも選擧の具体策で血眼になつてゐるのみ、解散といふのに餘りにも豫定されすぎたので刺戟がにぶくまるで活氣がなかつた、諸公の活力を與へるのは戰爭犯罪人指命の旋風を吹かせるに眠る、さて本月下旬か二月に入つて行なはれる選擧で其等各黨の離合集散二月中に特別議會、政權の移動其の間に燃料ぬきの寒氣と食糧危機とが交織される、前途は甚た多難の年を彼等は迎へたのである。

地方制度改革に
內務省首能部會議

政府は總選擧の成果に基く中央政治の民主化と並んで更に地方制度の全面的民主化とし、先に地方長官公選を具現せしむべき旨の方針を明らかにした、よつて政府は新しき昭和廿一年の政治行政改革は地方政治面につき具体的検討に乘り出すことゝなつた、新事態に即應する新地方制度の構想については內務省地方局に於て豫てから事務的研究を遂げて來たが、今日までは專ら新選擧法並に總選擧の諸準備に忙殺され殆ど其の本格的検討にまで取り運んでゐなかつた、しかし總選擧に關する諸準備も大体完了するに至つたので、客年末の卅一日午前十時から堀切內相、坂次官以下關係各局課長等參集初めて新地方制度に關する省議を開き其の基本構想について本格的意見の交換を行つた、この打合せは諸案を中心として省內の意見交換に止まつたが新年早々引續き會議を續行し、遲くも今月末までには內務省案を作製し來るべき總選擧後の特別議會にこれを提案協贊を得て可及的速に公布實施の方針を持してゐる。

全常磐地方
鑛山勞働者諸君

吾が礦夫組合の發展的歷史は實に吾國勞働運動史上光輝燦としてその存在を誇り常に階級運動の先驅的戰鬪的勞働組合たる榮譽を堅持し來つたのである、吾等一度礦夫の階級的利害を代表して蹶起せんか資本家財閥の走狗たる時の政治權力は狂暴的彈壓政策を以つて望み官憲のサーベルのみが偶々軍隊力を濫用すること再三吾等正義の主張要求を抑壓常に礦夫生活を蹂躙して省みず、礦夫組合の組織は運動は斯て次から次壞滅せしめられたのである、全常磐の礦夫諸君世の文化生活水準より吾等自らの生活を批判せよ何處に人間的文化的待遇ありや、只賃金的奴隸的どん底生活を發見するであらう、牛馬の如き苦役と搾取の連鎖に外ならない已れを見出すだけだ、それは勞働組合の組織と日常鬪爭がないからである、否吾々の勞働組合運動を勞力者の強固な安定勢力として國家が容認しなかつたからだ斯くて過去に於ける吾々の民主々義運動はさいの河原の石積的現實を繰返し今日を迎へたのだ、常磐地方の礦夫諸君吾が礦夫組合は足尾別子去澤に敗れ最後の牙城と化した常磐の組織を貧慾飽くなき資本の攻勢とその番犬と化した、官憲の彈壓、加ふるに白刄ひらめかす職業暴力團との聯合軍に破れ去つてこゝに十八年勞働者團結の自由は奪はれ吾々の意志と主張が完全に封鎖されるや俄然祖國日本は軍閥獨裁の專制政治と化し遂に滿洲事變を勃發せしめ今次の大戰へ發展せしむるに至つた、然して戰時体制の軍國主義法規は狂亂怒濤の如く國內を旋捲し吾が礦山地帶は憲兵の鐵鞭唸り不眠不休的强制稼働增產に次ぐ增產に狩り出された、斯て吾等に與へられた代償は如向肉体の疲勞困憊貴重なる生命の消滅のみだ、全常磐の礦夫諸君今や日本の軍ばつ官僚財閥の聯合特權勢力は敗戰亡國の慘たる現實の前に木葉微塵に粉碎された、然して新日本建設の重大使命は勞働者と農民との手に托され遂に自由平等の民主々義は吾等の手に還つた、然も見よ燃料國難石炭飢饉の重大化を現前に吾等の意志は大膽率直に表明され、礦夫組合の再建と生活條件改善の大施を掲げて起つた國內產業の興亡も吾等石炭を掘出す礦夫の意志にある、政府も資本家もこの現實を向避し得ない眞に石炭增產を欲するなら吾々礦夫の切實な要求に聽けそこに增產隘路克服と惡條件のそう蕩が可能である、全常磐地方の勞働諸君團結せよ吾等の牙城礦夫組合の再建は成つた、吾々の要求を政府に資本家に表示せん、

常磐地方礦夫組合結成大會

震へる戰災者
石城郡下へ近く衣料品

寒い正月を迎へながら石城郡下の各町村に疎開中の戰災者は未だ拂下品の衣類特配も得られず困つてゐる狀態にあるので、平地區配給統制組合ではこれが促進を圖る爲め同組合に各町村關係者の參集を求め拂下品配給協議會を開催した。この結果各町村で保管中の拂下品は各町村側の配給統制組合に移管し一級品から三級品まで査定して町村側が罹災者に配給券を發行有償拂下げを行ふことになつた、此の爲め平地區配給組合では查定委員會を編成し各町村を巡回して查定する豫定で嚴寒期に入つてゐるので急速に實行へ移すことになつた。

社告

諸物價騰貴の爲め本紙の購賣料金も自然値上の止むなきに至り本月より左の通り改正致し候

一、一部　二十五錢
一、一ヶ月　五十錢
一、廣告料　一行一圓
　場所指定五十錢增

募集
人夫　四五名
平市北白銀町
山崎次郎

釜屋
平市五丁目
電話九番九九番